

学校教育・指導事業

学校教育・指導事業については、次に掲げる項目について、目標・取組概要、自己評価、今後の課題と対応の方向性を項目別にまとめるとともに、市民の方々等から頂いた主な意見を掲載しました。

1 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図る。

項 目	1 高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の整備
目標・取組概要	教育内容・教育方法などに対応した多様な学習内容・学習形態やコンピュータその他の高度な教育機器の導入などを可能とする高機能かつ多様な学習環境を確保します。
自己評価	各小中学校に指導者用タブレット端末として教員相当台数（合計369台）を配備し、教員のICT活用指導能力の向上を図ることで、新たな学習形態を実現することができました。 また、タブレット端末を有効に活用するため、全校の普通教室に電子黒板を配備するための予算を計上し、学習意欲を高め、分かり易い授業により確かな学力の向上を目指し、情報教育環境の一層の推進を図る準備ができました。（平成27年4月導入）
今後の課題と対応の方向性	今後は学習者用ICT機器としてタブレット端末及び指導者用デジタル教材の整備もしなければならず、財源の確保が厳しい状況です。

項 目	2 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保
目標・取組概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。
自己評価	① 平成26、27、28年度の3箇年で小学校6校、中学校3校のトイレ洋式化工事を予定しており、平成26年度は郷州、松前台及び御所ヶ丘小学校3校のトイレ改修を行い、児童の学校生活における快適な環境づくりができました。 ② 松並土地地区画整理事業に伴う児童数の増加に対応するため、平成26、27年度の継続事業の1年目で、黒内小学校の校舎増築（12教室、エレベーター、昇降口）工事及び既存校舎の改修工事（トイレ改修を含む）に着手しました。 ③ 建築後30年以上経過し老朽化した愛宕中学校について、大規模改修工事（トイレ改修を含む）及びエレベーター棟増築工事の実施設計を行い、長寿命化を図るための準備ができました。

今後の課題と対応の方向性	① 小中学校のトイレ改修事業は、平成２７年度以降は国庫補助がなくなり、一般財源のみで実施することになります。計画どおり進める必要があります。 ② 松並土地区画整理事業地内で戸建て及び集合住宅等の販売が計画され、住宅地への入居に伴って児童生徒の増加が見込まれるため、通学対象の学校において教室不足等に対応した校舎の増築及び改修を行う必要があります。 ③ 校舎や屋内運動場（体育館）等の学校施設については、既に３０年が経過し老朽化している施設があり、計画的な大規模改修が必要となってきました。
--------------	---

項 目	３ 通学路の安全点検と危機管理体制の強化
目標・取組概要	安全で安定した教育環境の確保のため、通学路の安全点検、災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。
自己評価	① 通学路の安全点検は平成２４年度から実施しており、警察署、道路関係者及び学校関係者と連携した現地での安全点検と点検結果を基に、道路のカラー舗装、信号機やカーブミラーの設置等を行うことで登下校時の安全確保が図られました。 ② ９月１日に災害時の小中学校児童生徒引渡し訓練を実施し、危機管理体制の強化を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	① 児童生徒の登下校時の交通事故が多く発生しているため、引き続き、警察や道路関係者と連携した通学路の安全点検及び点検結果を基に安全対策を行うとともに、児童生徒への交通安全指導を強化します。 ② 当市においても不審者情報が寄せられており、地域住民の協力を得ながらの登下校時の防犯対策が必要です。

<外部の方々から頂いた意見>

- * 平成２６年度に実施した３小学校のトイレ改修事業については、先生や児童、保護者からも大変好評であり、非常に喜ばれました。
- * 電子黒板の整備は、平成２７年度に全小中学校の各普通教室に配備することとなり、廊下を移動する手間がなくなるため、先生方から非常に喜ばれています。
- * 児童生徒の登下校時の安全確保のため、通学路となっている道路で、交通事故発生の危険度の高い交差点への信号機の設置及び道路の拡幅や歩道の整備が求められています。

2 学校教育プラン

新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し、以下の学校教育プランを推進します。

〔1〕ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育にとって最重要課題です。確かな学力の育成のためには、児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることが大切です。

学校は、学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、地域や子どもの実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項 目	1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善
目標・取組概要	① 小学校高学年による教科担任制を推進します。 ② 基礎的・基本的な知識・技能の育成では、体験的な理解や繰り返し学習を重視します。 ③ 小学校1・2年生と中学校1年生を対象に学習支援ティーチャーを配置します。 ④ 少人数加配教員及び学習支援ティーチャー・社会人TT等の積極的な活用を図ります。 ⑤ 市基礎学力統一テストの実施（小学校1・2年生）や学校改善プランを活用し、授業改善に努めます。 ⑥ 定着度を数値目標化し、説明責任を果たすことができるようにします。 ⑦ 学校行事の厳選を図り、計画的に授業時間が確保できるようにします。 ⑧ 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着と習慣化を図ります。
自己評価	・ 確かな学力の定着については、「茨城県学力診断のためのテスト」の結果を見ると、市全体としては、小学校3年生から中学校3年生までの全ての学年が県平均を上回り、十分に定着してきていると思われます。平成25年度小学校6年生は、県平均を11.5ポイント上回り、翌平成26年度中学1年生の状況は県平均と比較して33.6ポイント上回っています。もちろん個人差があるので、身についていない児童生徒に対しては、一人一人の課題を明確にして個別に指導していく必要があります。 ※ 県学力診断テスト正答率の推移（数字は各教科の正答率を合計して記入）

		区 分			H 2 4	H 2 5	H 2 6
	県平均	小学校	3 年	309. 4	298. 8	315. 5	
4 年			308. 4	292. 3	314. 6		
5 年			298. 2	282. 6	302. 6		
6 年			312. 2	292. 3	315. 5		
中学校		1 年	331. 7	315. 5	361. 3		
		2 年	300. 3	294. 0	333. 2		
		3 年	288. 5	277. 3	300. 8		
注 1 小学校は 4 教科，中学校は 5 教科で実施							
	・ 守谷小学校，郷州小学校に理科専任教員を配置し，専門的な立場からの指導により児童の理科への関心が高まりました。 ・ 小学校 1・2 年生を対象に市基礎学力統一テストを実施し，児童の実態を把握しました。基本的な知識・技能はおおむね定着しています。目標点数に到達しない児童には，昼休みや放課後を利用して繰り返し指導を行うことが大変有効でした。 ・ 平成 2 5 年度に配置基準を拡充（小 1 で 2 6 人以上）した学習支援ティーチャーを全小中学校（小学校に 3 1 名，中学校に 1 0 名）に配置，社会人 T T を 2 名配置（郷州小，大野小）し，児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上を図ることができました。 ・ 小中一貫教育を推進していく中で，学習目標とスキル・生活目標とスキルを義務教育 9 年間の発達段階で身に付けるべく方向性を示した「学びのプラン」，家庭学習のあり方を示した「家庭学習のてびき」を市で統一し，作成しました。						
今後の課題と対応の方向性	・ 「茨城県学力診断のためのテスト」の結果は，市全体としては良好でした。反面，個人差への対応も課題となりました。各学校では，結果を十分に分析し，教育課程の編成を工夫し，放課後の時間を作ったり長期休業を利用したりして，個に対応するための補充学習を行っていきます。 ・ 基礎的・基本的な知識，技能の確実な定着のためにも，発達段階に応じた学習スキルの定着や家庭学習の習慣化が不可欠です。平成 2 5 年度に作成した「学びのプラン」と「家庭学習の手引き」の有効活用を継続し，生活・学習スキルの定着を図っていきます。						

項 目	2 思考力，判断力，表現力の育成と学習意欲の向上
目標・取組概要	① 興味・関心を高める学習素材の開発や学校図書館利用の工夫を図ります。

	② 習得した知識・技能を活用する学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育みます。
自己評価	平成26年度は、市の指定を受け2校が研究発表会を行い、2校ともに大きな成果を上げることができました。 ・ 松前台小学校では、「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」をテーマに国語の説明文における単元を貫く言語活動の充実を通して、読み取る力や表現する力の育成を図りました。 ・ 守谷中学校では、「人間としてのより良い生き方を見つめる道徳の時間の在り方」をテーマに、発問の工夫と話し合いを通して道徳的価値の自覚を深めることができました。
今後の課題と対応の方向性	・ 市の指定を受けた松前台小学校での研究では、児童の主体的な学習、教員の指導力の向上や授業改善という成果が見られました。今回は、国語の説明的文章に特化して研究が推進されましたが、身に付けた力を国語の文学的文章の授業や他の教科に生かしていきます。 ・ 守谷中学校の研究では、生徒の自己肯定感の上昇や教員の道徳における指導力の向上という成果が見られました。今後も道徳の時間を充実させると共に、他教科・領域とのつながりを大切にし、全教育活動において道徳的価値の自覚を深めていきます。

項 目	3 個に応じた教育の積極的な推進
目標・取組概要	① 定着度に応じて、発展的な学習や補充的な学習を進めます。 ② 少人数やT Tによる授業、習熟度別の授業等を積極的に展開し、個に応じた教育の充実を図ります。
自己評価	各学校において、少人数加配教員（小学校7人、中学校6人）や学習支援ティーチャーを積極的に活用し、少人数やT Tによる授業、習熟度や課題別の授業等を展開しながら発展的な学習や補充的な学習を進めるなど、個に応じた指導の充実が図られました。
今後の課題と対応の方向性	学習支援ティーチャーの配置により、学習習慣の確立を含めたきめ細かな個への指導の充実が図られましたが、今後も質の高い学習支援ティーチャーの確保に努めていく必要があります。

項 目	4 特別支援教育の充実
目標・取組概要	① 校内支援体制を確立し、障がいのある児童生徒に対して一人一人の教育的ニーズに応じた個別の支援計画・指導計画を作成し、指導に当たります。 ② LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）等の児童生徒への特別支援学級の弾力的運用を推進します。
自己評価	特別支援教育については、特別支援学級担当者会議や教育支援会

	議等を通して学校間の連携を図ることができました。 - 平成26年度も、御所ヶ丘中学校区が、文部科学省からインクルーシブ教育システム構築モデル地域（スクールクラスター）に指定され、域内の教育資源の組合せにより、域内の全ての子ども一人一人の教育的ニーズに応える仕組みを構築しました。 - LD、ADHD等の児童については、介護補助員（小学校36人、中学校5人）等を配置し、普通学級と特別支援学級との相互学習を行うなど弾力的な運用をしました。 【配置校一覧】 大井沢小、高野小、守谷小、黒内小、御所ヶ丘小、郷州小、松前台小、松ヶ丘小、御所ヶ丘中、けやき台中 - 個別の教育支援計画・指導計画を市内統一形式にし、異校間（小小、小中、中中）の引継ぎが同一歩調で行えるようにしました。
今後の課題と対応の方向性	- 特別な支援が必要な幼児、児童生徒に対し、障がいの程度等を検査し、適切な支援のあり方を保護者や学校等にアドバイスできる教育相談員を配置していることで、幼稚園・保育所・療育教室と小学校との円滑な接続が図られましたが、今後はそれらの児童生徒に対して学校訪問をし、現状の把握をしていきます。 - インクルーシブ教育については、今後は、保・幼・小・中・高等学校を通して一貫した支援を実施することが大切になります。そのために、学校長が十分なリーダーシップを発揮し、教職員の専門性向上のための研修体制等を充実させること、域内の教育資源との連絡調整をする役割を果たす特別支援教育コーディネーターを育成すること、域内の教育資源との継続した連携体制の構築及び効果的な事例を蓄積・共有することが必要です。

項 目	5 読書活動の積極的推進
目標・取組概要	① 朝の読書タイムやブックトーク等、本に親しむ時間を提供します。 ② 「みんなに進めたい一冊の本」事業への積極的な参加を行います。 ③ 「守谷市子ども読書活動推進計画」を活用し、読書活動の推進を図ります。

自己評価	「みんなにすすめたい一冊の本」事業への積極的な参加を促し、読書の習慣化を図りました。小学校で50冊以上読んだ児童の割合は71.1％で、中学校で30冊以上読んだ割合は10.8％でした。 ※ 「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業での読書割合の推移 単位：％ <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr><tr><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr><tr><td>県平均</td><td>65.0</td><td>65.4</td><td></td><td>16.5</td><td>16.9</td><td></td></tr><tr><td>守谷市</td><td>71.3</td><td>72.4</td><td>71.1</td><td>10.5</td><td>10.5</td><td>10.8</td></tr></table>	区 分	小学校			中学校			H24	H25	H26	H24	H25	H26	県平均	65.0	65.4		16.5	16.9		守谷市	71.3	72.4	71.1	10.5	10.5	10.8
区 分	小学校			中学校																								
	H24	H25	H26	H24	H25	H26																						
県平均	65.0	65.4		16.5	16.9																							
守谷市	71.3	72.4	71.1	10.5	10.5	10.8																						
今後の課題と対応の方向性	「みんなにすすめたい一冊の本」事業では、小学校では県の平均を上回りましたが、中学校ではまだ県の平均を下回っているため、中学校での読書意欲の向上に向けた取組を、司書教諭と連携して推進していきます。																											

＜外部の方々から頂いた意見＞

- ＊ 家庭学習カードへの記入は、大変ですが、子どもの励みになるよう頑張ろうと思います。
- ＊ 先生たちがより分かりやすい授業をしようと工夫しているので、PTA ももっと協力したいと思います。
- ＊ 小学校の教科担任制の仕組みと効果がよく分かりました。今後も続けてください。
- ＊ 先生方は本当によく指導してくださっていると思います。学習面やいろいろな行事での子ども達の様子を見て、感動しました。
- ＊ 学校は、少し過保護過ぎると感じます。子どもにいろいろな失敗を経験させ、考える力を身に付けさせるべきです。
- ＊ 基礎学力を付けるのと同時に、その活用能力も身に付けさせてほしい。
- ＊ 基礎基本の充実にさらに努めてほしい。
- ＊ 知識だけでなく、知識を基に物事をよく考え、自分なりの考えがもてる人間を育てる工夫をしてほしい。
- ＊ 自分の考えをまとめる学習に対する指導は、各先生の力量によるところが大きい。授業力の向上を図ってほしい。
- ＊ レベルアップのためには単元テストで実態把握をし、常にフィードバックしていくとよい。
- ＊ 教育の不易の部分大切にしていってほしい。
- ＊ できる子を伸ばすことも大切にしていってほしい。
- ＊ 学年が上がるほど個人差は大きくなる。今後も個に応じた指導を心がけてほしい。
- ＊ 朝読書の時間を今後も大切にしていってほしい。
- ＊ 課題の出し方など職員の話し合いが必要。また、予習・復習ができるようになる

学力も向上する。

- * 我々大人でも、キーボードで文字を打つことが多くなると、文字が書けなくなる。子供のうちに、しっかりと字を書けるようにしておく必要がある。
- * 守谷の学力は、茨城県の中でもトップクラスと聞いている。喜ばしいことである。
- * 学習規律がしっかりしているため、児童は落ち着いている。
- * 「みんなにすすめたい一冊の本」については、本の内容も大切になってくる。一概に、冊数が多ければよいと言うわけではないと思う。
- * 家庭学習時間の「学年×10分+10分」については、塾での学習を加味するのか？加味しないとしたら、時間をクリアするのは難しいと思う。学校で統一した指導が必要になってくる。
- * 少人数学習は、学力向上のために大変よい取組である。打合せの時間をどのように確保していくかが課題である。
- * 先生方のアンケート結果をみると、自己評価は「B」が多いように思う。先生方が一生懸命指導しているのがよくわかる。自信をもって「A」を付けてほしい。
- * 単学級でクラス替えもないので、自分の考えを発表する場を多くして欲しい。
- * きらめきプロジェクトについては、今年度学びのプランや家庭学習の手引きが保護者に配られたので、家庭と学校が連携して活用して欲しい。
- * 学力の定着について、全職員で協力している様子が分かったので、継続して欲しい。
- * 少人数指導で取り組んでいることや話し合い活動、グループ活動をたくさん行っているのので、子どもたちの学習意欲を高めるのに効果が出ている。また、学習環境が充実しており、とても良いことである。
- * 持論ではあるが、生徒の伸長は個々の教師の力量にかかっている。その力量を伸ばすためには、教師の努力は勿論、校長の学校経営における雰囲気も大切である。その点でも素晴らしい学校経営である。
- * 学力向上が数値で見られるが、一番の要因が家庭学習の充実であり、家庭と連携した取組を称賛したい。
- * 生徒一人一人が課題意識をもって取り組めるような指導が大切である。
- * 書くということは、思考力・創造力・表現力等を養うために必要なことなので、大いに推奨してもらいたい。
- * 教科ごとの差を踏まえ、生徒が不得意教科をなくして均等な学力をもてるよう進めて欲しい。
- * 家庭学習の充実は素晴らしい。部活動とも両立を踏まえ、生徒や保護者にアドバイスすることも必要である。
- * 生徒が大変落ち着いて授業に取り組んでいる。また、グループ学習を多く取り入れていることが大変印象に残った。
- * 「学力の二極化」の課題については、下位の生徒に対して、今後も学校全体として計画的・継続的に指導してほしい。
- * 国語の力を伸ばしていくためにも、「朝の読書」、「みんなにすすめたい1冊の本事業」

は今後も続けてほしい。

- * 朝の読書の習慣が定着し、本に親しむ意識が高まっている。
- * 学校公開日以外の普段の授業を見せてもらう機会があったが、活気のある授業を見ることができた。普段の授業を保護者が参観できるように呼びかけていくとよい。
- * 小中一貫教育は、ぜひ推進してほしい。
- * 家庭学習で提出したノートに、必ず先生のコメントが書かれている。先生方の尽力に感謝したい。

〔2〕ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

近年、規範意識や道徳性の低下が叫ばれています。こうした問題の解決のため、他人を思いやる心や倫理観、責任感等の育成を図り、心豊かな児童生徒を育てます。

項 目	1 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立
目標・取組概要	① 児童生徒の生活全体を見直し、全教育活動を通して「規範意識」を育て、基本的行動様式の確立を図ります。 ② 「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進し、望ましい基本的生活習慣の定着と生活リズムの向上を図ります。 ③ エンゼルサポートプランを活用し、発達段階に応じた指導を行います。 ④ 「守谷しぐさ（守谷市で独自に作成したもの）」を利用し、思いやりを込めた立ち居振る舞いや所作について気付きを深めていきます。
自己評価	・ 基本的生活習慣の基盤となる「あいさつ」は、各学校において児童生徒と教員が毎朝校門や昇降口で行うあいさつ運動、保護者や地域の方々・あいさつボランティア隊とのあいさつ運動週間等の取組を通して定着化が図れました。規範意識の高揚については、学校だけの取組では限界があり、家庭や地域との連携が必要です。 ・ 小学校1・2年生に学習支援ティーチャーを配置したことで、きめ細かな支援が可能になり、基本的生活習慣や生活リズムの向上を図ることができました。 ・ 「守谷しぐさ」については、推進委員会を設け、内容の検討や実践の方向性等について協議し、小冊子を作成しました。
今後の課題と対応の方向性	・ あいさつについては、守谷市が進める保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」に伴い、中学生が母校の小学校に出向いての小中合同のあいさつ運動が大変効果的でしたので、今後も全ての中学校区において小中合同のあいさつ運動を積極的に推進していきます。 ・ 規範意識の高揚は、「市生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」の中で共通認識を持ち取り組んでいきます。 ・ 学習支援ティーチャーの配置は、今後も質の高い人材の確保に

	努めていきます。
--	----------

項 目	2 道徳授業の充実と豊かな人間性の育成																											
目標・取組概要	① 道徳の授業の改善を中心に心の教育の充実を図り、「豊かな人間性」の育成を図ります。 ② 「私たちの道徳」の趣旨を生かし、創意ある活用を進めます。 ③ 校長や外部指導者が道徳の授業に参加できるような体制づくりを進めます。 ④ 道徳の授業を保護者や地域に積極的に公開します。 ⑤ 児童生徒の発達段階に応じ、集団宿泊活動や自然体験活動（小学校）、職場体験活動（中学校）を重点的に推進し、社会性や豊かな人間性を育みます。																											
自己評価	・ 道徳教育推進委員会を立ち上げ、各校の道徳教育の充実を目指しています。また、道徳の授業では、授業を保護者や地域の方々に積極的に公開するなど、学校と家庭、地域社会とが共通理解を深め、相互の連携を生かした一体的な道徳教育の充実が図られてきています。また、学年便りの道徳コーナーを通して、授業の様子や子どもの考えなどを知らせることで、家庭と連携した心の教育を推進しました。 ・ 不登校児童生徒の不登校率は、小学校で0.60％、中学校で2.72％となり、小中学校ともに増加傾向にあります。増加傾向の背景には、児童生徒の情緒的混乱や家庭環境も含めた複合的な事由があげられます。各学校での家庭訪問や電話連絡などのきめ細やかな個別への対応とともに小中の一貫した支援体制の確立が重要です。 ※ 不登校出現率の推移 単位：％ <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr><tr><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr><tr><td>県</td><td>0.32</td><td>0.35</td><td></td><td>2.74</td><td>2.73</td><td></td></tr><tr><td>守谷市</td><td>0.44</td><td>0.49</td><td>0.60</td><td>3.23</td><td>2.35</td><td>2.72</td></tr></table>	区 分	小学校			中学校			H24	H25	H26	H24	H25	H26	県	0.32	0.35		2.74	2.73		守谷市	0.44	0.49	0.60	3.23	2.35	2.72
区 分	小学校			中学校																								
	H24	H25	H26	H24	H25	H26																						
県	0.32	0.35		2.74	2.73																							
守谷市	0.44	0.49	0.60	3.23	2.35	2.72																						
今後の課題と対応の方向性	・ 小学校の不登校率がここ数年増加傾向にあります。DVやネグレクト、両親の離婚等、家庭の事由による要因がその背景にあります。これまでも関係機関と連携し取り組んできましたが、なお一層、家庭や関係機関との連携を密にし、解消に向けた取組を進めていきます。																											

項 目	3 「ゼロトレランス（生徒規律指導を厳格に行う教育方法）」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
-----	---

目標・取組概要	① 教師と児童生徒の日常的な触れ合いを基盤に「ダメなことはダメ」の指導の徹底を図ります。 ② 集団生活における自己の役割と責任を持たせる指導の徹底を図ります。
自己評価	- いじめ問題は、「いじめは、いつでもどこでもどの子にも起こり得る」という危機感を持ち、未然防止・早期発見・適切な対応に向け、子どもたちの小さなサインを見逃さない日頃の観察やアンケートの強化、道徳の授業を中心とした心の教育の充実に努めました。 - いじめが発生した際には、関係機関も含めチームを組んで対応し早期解消に努めました。いじめの認知件数は、小学校１４件、中学校１０件、計２４件で、そのうち解消したものが１８件、残り６件が継続支援中でした。昨年度とほぼ同じ認知件数でしたが、いじめ問題については、学校と教育委員会、関係機関との連携が重要です。早期解決に向け、「いじめ重大事態調査委員会」を条例で設置しました。 - 市内の小中高が合同で「Moriya いじめ防止フォーラム」を開催し、守谷市いじめ防止スローガンを採択しました。
今後の課題と対応の方向性	- いじめ問題は、未然防止に向けた取組強化が必要です。いじめに関するアンケートの回数や対象（保護者）を増やし、より確かな実態把握に努めます。また、教職員からの呼びかけだけでなく、児童生徒が中心となり、いじめ撲滅のための集会やキャンペーンを行うことが重要だと考えています。 - 過去には訴訟となる事案も発生したので、今後も対応を強化していきます。

項 目	４ 一人一人を大切にし、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進
目標・取組概要	① 人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営に努めます。 ② 交流活動やボランティア活動等、多様な体験活動を取り入れ、人権意識の高揚を図ります。 ③ 全教科・領域を通して、様々な人権課題を正しく理解する活動の充実を図ります。
自己評価	- 各校においては、「Moriya いじめ防止フォーラム」に向けて、いじめ防止のための集会活動やあいさつ運動、フォーラムの報告会を行いました。 - 人権意識の啓発を図る作文や書道、俳句コンテスト等に積極的に参加し、成果を上げました。

今後の課題と対応の方向性	・ 人権意識を高め、あいさつや言葉遣いを大切にして、人に対する思いやりの心を継続して育むとともに、教職員自らが言動に注意し、学校における人権教育を展開していきます。 ・ 「Moriya いじめ防止フォーラム」の継続開催と、その内容について保護者への働き掛けを行っていきます。 ・ 人間関係づくりが本市の課題の一つです。ＱＵテスト（心理状態を把握するための民間テスト）等を活用して人間関係を把握し、心の居場所のある学年・学級経営を目指していきます。
--------------	---

項 目	5 教育相談体制の充実
目標・取組概要	① スクールカウンセラー（臨床心理士の資格を持ち、子どもの心の相談を行う者）、心の教室相談員、教育相談員、適応指導教室との連携を図り、子どもたちの心の問題に関わる様々な課題に対処することにより、自他ともに尊重し合う心を育みます。 ② 児童生徒だけでなく、保護者に向けた電話相談、面談等の充実に図ります。
自己評価	教育相談活動は、小学校には心の教室相談員を、中学校にはスクールカウンセラーを配置し、悩みを抱える児童生徒や保護者に対して個に応じた相談活動を充実させました。指導室所管の教育相談機関での相談件数は、小学校心の教室相談員１１０９件、中学校スクールカウンセラー４３３件、市適応指導教室１００７件、市教育相談室５４９件でした。
今後の課題と対応の方向性	スクールカウンセラー、心の教室相談員、教育相談員、適応指導教室指導員、家庭児童相談員等、それぞれの専門性に応じた相談員を紹介することで、課題に応じた適切な相談の機会を設けていく必要があります。

＜外部の方々から頂いた意見＞

- * 授業公開や「わたしたちの道徳」は、子どもがどのようなことを学んでいるのか知ることができるのでいいです。
- * 不審者の問題がありますが、もっとあいさつができるとよいと思います。
- * いじめについては、低学年からしっかり取り組んでほしいです。もちろん家庭でもしっかり行っています。
- * 今後も、児童にあいさつの意義を理解させ、あいさつの一般化を図ってほしい。
- * 自分の考えをきちんと持って学習や生活ができる子の育成を目指してほしい。
- * あいさつもだが、言葉遣いが気になる。指導が必要である。
- * 清掃指導の重視はとても良い。習慣化できるよう継続指導をお願いします。
- * けじめを大切にして、切り替えが素早くできる児童を育ててほしい。
- * いじめは、学校の中だけの問題ではない。相談しやすい環境づくりや迅速な初期対

応を今後も継続してほしい。

- * スマートフォンの普及により、子供を取り巻く環境が大きく変わっている。いじめなどにつながらないか心配である。
- * 学校外でのトラブルでも、学校も協力して取り組まなければならない。
- * 市全体でいじめの防止に取り組んでいる様子が分かった。大切なことなので、日々の指導とともにしっかりと行ってほしい。
- * 言葉遣いやあいさつは今日的な課題であるが、地域全体で子どもをいい方向に導いていければよいと思う。
- * いろいろな体験活動が行われており、子どもたちは良い経験をさせてもらっている。
- * 登校時、良いあいさつが聞かれるようになってきている。特に最近、子どもたちからのあいさつが増えてきている。
- * 特別支援学級の子どもたちに対して、周りの子どもたちはどのように接しているのか。差別やいじめにならないように注意してほしい。
- * 1日3食きちんととっている生徒の数値が高い。朝食をきちんととる習慣は大変よい。
- * 放課後の補習や、長期休業中の学習相談等、個別支援に時間を掛けてくださり感謝している。
- * 学校を訪問するたびに、元気なあいさつに感動している。大変素晴らしい。
- * 体育祭や文化祭等の学校行事では、生徒の生き生きと活動している姿がとても印象に残った。今後も、生徒が主役で楽しいと思える学校であり続けてほしい。
- * 学校の桜やハナミズキの花、花壇やプランターの花など季節感のある花いっぱい環境は、大変素晴らしい。生徒たちと一緒に花壇やプランター・鉢等で花を育てる心を今後も大切にしてほしい。
- * いじめについては、今後も常に危機感をもって取り組んでほしい。
- * なかなか登校できないでいる生徒や目立たない生徒を大切にしてほしい。先生の言葉一つで救われる生徒もいる。一人一人に目を向けて対応してほしい。
- * 規範意識や思いやり等、目に見えないもの、隠れているものをしっかり育てていくことが大切である。優しさがあれば何でもできる。
- * 学校は集団生活を学習する場、マナーやしつけは家庭で行うべきことだろう。
- * 生徒会主催の「クリーン作戦」は来年度も続けて、奉仕の心や自主性を育ててほしい。
- * 不登校の要因や生徒指導に家庭の問題が増えてきている。市としての対応も必要である。是非関係機関と連携して進めてほしい。
- * 経験から一度学校の評判を落とすとなかなか上がらない。落とさないようにお願いしたい。
- * 心を育てる教育をお願いしたい。
- * 教育環境の充実が、守谷の良いところである。環境が人を作る。
- * 一貫教育は、幼稚園や中学校がすぐ近くにあるのでとてもよい交流ができている。さらに立地条件の良さを生かした取組に期待する。
- * 生徒の個性・人間性の伸長のための組織的・計画的・継続的な取組に対して敬意を

表する。

- * いじめは絶対に許されない。人は皆平等であるという考え方を人権教育の中で徹底的に教えるべきである。
- * いじめ問題は、昨今のインターネット環境の充実等で、いじめの認識がない状態も見受けられる。体育祭や文化祭での一体感や深い友情を見ると、いじめなんてこの学校にはないように思えるほど感動する。今後も生徒一人一人に伝わる指導を続けていきたい。

〔3〕ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

子どもたちの体力低下が著しいといわれていることから、その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め、健やかな児童生徒を育てます。

また、子どもたちの安全は、教育活動を支える最重要課題であります。安全についての考え方を子どもたちに周知徹底するとともに、安全確保のための万全な体制をつくり、安全・安心な学校づくりを目指します。

項 目	1 体力の向上																																	
目標・取組概要	① 創意工夫を凝らした日常的な体力づくり活動を推進します。 ② 子どもの体力や運動能力の実態を捉え、体育の授業や外遊びの工夫改善を図ります。 ③ 外部指導者の積極的導入や活動場所を確保し、中学生の部活動の活性化を図ります。																																	
自己評価	各学校では、体育の授業や業間休み、体育的行事、中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ、体力の向上を図ってきました。体力テストA+Bの達成率は、小学校が51.2％で県平均-2.1ポイント、中学校が62.2％で県平均+2.5ポイントでした。 ※ 体力テストA+Bの達成率の推移 単位：％ <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr><tr><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr><tr><td>県平均</td><td>51.7</td><td>51.8</td><td>53.3</td><td>60.4</td><td>60.5</td><td>59.7</td></tr><tr><td>守谷市</td><td>52.8</td><td>50.0</td><td>51.2</td><td>59.0</td><td>64.2</td><td>62.2</td></tr></table>							区分	小学校			中学校			H24	H25	H26	H24	H25	H26	県平均	51.7	51.8	53.3	60.4	60.5	59.7	守谷市	52.8	50.0	51.2	59.0	64.2	62.2
区分	小学校			中学校																														
	H24	H25	H26	H24	H25	H26																												
県平均	51.7	51.8	53.3	60.4	60.5	59.7																												
守谷市	52.8	50.0	51.2	59.0	64.2	62.2																												
今後の課題と対応の方向性	・ 体力テストA+Bの達成率は、小学校では県平均を若干下回りましたが、中学校ではかなり上回る結果となりました。茨城県は平成26年度全国体力テストにおいて、小学校5年生では男子が第3位、女子が第2位、中学校2年生では男女とも第2位であったことを考えると、本市の子ども達はかなり体力がついていると思われます。今後も体育の授業だけでなく、全教育活動の中で運動を取り入れる機会を設定し体力の向上を図っていきます。																																	

項 目	2 健康教育の充実
-----	-----------

目標・取組概要	① 薬物乱用防止教室の実施と喫煙防止教育の充実を図ります。 ② 指導計画に基づく組織的・計画的な性教育を実践します。
自己評価	学校医による小児生活習慣病予防教室，講師による薬物乱用防止教室，がん予防教室，性教育講演会，養護教諭による歯磨き指導等の発達段階に応じた健康教育を実践し，心身の健全な発達に対しての関心を高め，安全な行動や規律ある集団行動の体得につながりました。
今後の課題と対応の方向性	・ 健康教育の充実は，引き続き関係機関（学校医，保健センター，警察等）と連携して健康に対する自己管理能力を高めていきます。

項 目	3 危機管理体制の確立と安全教育の実施
目標・取組概要	① 交通安全教育，防災教育，防犯教育の徹底を図ります。 ② 緊急時に役立つ防災・防犯マニュアルを見直し，実践化を図ります。 ③ 不審者侵入対策として，防犯カメラを有効に活用します。 ④ 通学路における要注意箇所・時間帯等を理解し，危険予測・回避能力の向上と徹底を図ります。
自己評価	・ 各校の交通安全教育，防災教育，防犯教育は，保護者や地域，関係機関と連携した様々な取組が行われ，児童生徒の安全・防犯意識を高めることができました。 ・ 各校にはメールマガジン配信のための環境が整っており，全校で活用を図っています。不審者出没，台風や降雪による登下校時刻の変更，避難訓練における引き渡しの情報等を瞬時に一斉に送信でき，危機管理体制の確立の上で大きな効果を上げています。 ・ 平成26年度も「防災の日」に合わせ，市と共催で市内小中学校全校が一斉に防災訓練を行いました。各小中学校では保護者への引渡し訓練も同時に行われ，多くの保護者が参加し関心を高めることができました。 ・ 各校とも青色防犯パトロール車を活用し，児童生徒の登下校時には青色灯を点灯しながら巡回活動を行っています。教員だけでなく，保護者や地域のボランティアの方々の参加により，登下校時の児童生徒の安全確保に大きく貢献していると思われます。
今後の課題と対応の方向性	・ 市と共催で市内全小中学校と地域が連携して防災訓練を行い，成果を上げることができました。今後は，保育所や幼稚園の参加も呼びかけていきます。

項 目	4 食に関する指導の充実
目標・取組概要	① 食に関する計画や指導の充実を図り，児童生徒が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付けることができるようにしま

	す。 ② 給食活動等を通じて、自らの健康管理ができるようにするとともに、健康な体や豊かな心の育成を図ります。 ③ 飯盒炊飯実習体験を推進します。
自己評価	食に関する指導は、栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果、食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり、栄養や食物についての知識や関心が高まったり、望ましい食習慣の定着を図ることができました。また、小学校5年生と中学校2年生に対しては飯盒炊飯実習体験を実施し、食の大切さを実感させることができました。
今後の課題と対応の方向性	- 栄養教諭の専門性を生かした食育の指導体制の充実を図っていきます。 - 食物アレルギーに関する対応は、重要課題の1つです。アレルギーをもつ児童生徒については、担任1人ではなく複数の教員で対応するよう周知徹底を図ります。 - 学校における食育指導のみならず、家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図っていく必要があります。 また、家庭との連携により、食育以外の基本的生活習慣をさらに見直す機会も作っていきます。

<外部の方々から頂いた意見>

- * 子どもの個人差に配慮して配膳してくれるので、完食の指導を通して偏食が治り感謝しています。
- * ホームページに、学校のかぜ・インフルエンザ状況や予防についての情報があり役立っています。
- * 健康手帳から子どもの成長がよく分かります。
- * はしの持ち方がよくない子がたくさんいるので注意した方がいいと思います。
- * 学校保健委員会の参加者をもっと呼びかけ、たくさんの保護者に参加させる必要がある。
- * 日常生活の中で体力向上ができるよう取り組んでほしい。
- * 朝食摂取率 100%を目標に頑張ってもらいたい。親の意識を変えるには、各家庭の実態把握も必要である。児童には、自分で用意して食べる指導をしてはどうか。
- * 通学路で危険な箇所について、市や警察に相談して迅速に改善して欲しい。
- * 今の子どもたちは、外に出て遊ぶことが少ない。縄跳びもなかなか上手にならないように思う。特に、外で遊ばなくなる5・6年の女子に対しては、手立てが必要である。
- * 体育的行事に対して、子どもたちが意欲的に取り組んでいる様子が分かった。内容も工夫できるところは工夫し、充実させてほしい。
- * 外部機関の活用や地域の連携を更に図って欲しい。

- * 子どもたちの危機意識の低さが見られる。危機意識を高める教育が大事である。すべて大人が先回りしすぎることにも問題があるのではないか。
- * 1日の始まり、「おはようございます」の一言が気持ちよくできることの大切さを小さいうちから中学生までの間に身に付けさせたいものである。
- * あいさつは人として最低限の意思表示の行為であり、大人も含めてできていないのが現実でもある。学校内では、来校者に生徒からあいさつをする姿を多々見る。学校教育の中での様々な取組により、生徒の意識が向上していると思う。校内の活動や守谷駅等の校外での活動を通して、更にあいさつの重要性を浸透させてほしい。ただ、あいさつ等の礼儀は家庭教育の中でしつけなければならないことを、保護者は忘れてはならないと思う。
- * 健康維持と体力増進に関しては、日々の努力が大切である。生徒一人一人が目標をもてる活動をしてほしいのではないか。例えば、東海道や今話題の北陸新幹線の距離を目標走行距離として、トレーニングに励ますようなことがあってもいいのではと思う。
- * 自転車通学者に対し、保険への加入を更に促してほしい。
- * 歯磨きについては、流し台に課題があるようだが、工夫して小学校からの継続指導をお願いしたい。
- * 食物アレルギーの対応については、今後も万全を期してほしい。
- * 今年度、道路での自転車の通行について、一部改正があり、指導されているとのことですが、自転車で登校する生徒には、小学生と接触することなどないように注意してほしい。
- * 交通安全指導と併せて不審者への対応についても継続的に指導し、事件事故に遭わないようにしてほしい。
- * 生徒の自転車の乗り方については、自転車が軽車両であるということを認識させるようにしたい。社会的責任があることを生徒が分かるようにしていく必要がある。
- * 夜、塾に通う生徒が少なくなっている。コンビニにもいない。よい傾向である。

〔４〕ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

21世紀を生きる子どもたちには、新しい時代に対応した教育が必要です。守谷市においては、子どもたちが自らの力で将来を切り開いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育の充実を図ります。

項 目	1 国際理解教育の充実と英語力の向上
目標・取組概要	① 「英語活動」「外国語活動」において、国際理解教育の更なる推進を図ります。 ② 「A L Tと遊ぼう」の計画的実施と内容の充実を図ります。 ③ 外国の姉妹都市や市内における外国人との交流活動を推進します。
自己評価	・ 国際理解教育と小学校の外国語活動及び中学校の外国語教育は、平成13年度から全校にA L T（外国語指導助手）を配置し、授業

	だけでなく日常生活においてもALTを積極的に活用し、外国語に触れる体験的な活動の場面を多く設けるなど充実した活動が展開されています。毎月第2土曜日に実施している「ALTと遊ぼう」「ALTと話そう」には希望者が多く、関心の高さが伺えます。 また、中学生対象の「English in Action」を毎月第3土曜日に設定し、ALTとの会話を楽しむ中学生の姿が見られました。 ・ 平成26年度児童アンケートでは、「外国語（英語）活動は楽しいか」という質問に対して93%の児童が、また「英語を話せるようになりたいか」という質問に対しては91%の児童が肯定的な回答をしています。 ・ 平成26年度の保護者アンケートでも「ALTの全校配置はよいと思う」97%、「子どもの外国語への興味関心が高まった」81%、「外国語活動を参観したことがある」100%と、本市の取組について大変好意的です。
今後の課題と対応の方向性	・ 本市では、13年前から全校にALTを配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、国際理解力や外国語への興味関心が高まってきています。「話せる英語」を目指し、教育課程外の活動である「ALTと話そう」を中学生にまで拡大（English in Action）してきたので、今後はその充実に努めていきます。

項 目	2 外国語教育の小中連携と充実
目標・取組概要	① 中学校外国語教育へのスムーズな移行を図るためのガイドラインを作成します。 ② 中学校における外国語教育の充実を図ります。 ③ 英語への関心を高める「英語検定」を積極的に推奨します。
自己評価	・ 外国語活動推進委員会を定期的に開催し、授業研究等を通して各学校の外国語担当者とALTとが意見交換を行い、指導方法の工夫改善、円滑な小中の接続を図っています。 ・ 平成26年度「中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率」調査では、市全体で取得率38.6%となり、前年度を上回る結果となりました。全小学校にALT1人を配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、英語に対する関心が高まり英検取得につながったものと考えます。 【英検取得率状況】 平成23年度：32.5% 平成24年度：30.9% 平成25年度：35.5% ・ 小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階

	における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」を作成し、実践しています。
今後の課題と対応の方向性	・ 「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」に基づき、英語活動及び外国語活動の推進等について、外国語活動推進委員会を中心に研究していきます。 ・ 中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率は、高いものの、学校間で差があるので啓発していきます。

項 目	3 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上
目標・取組概要	① 小学校では、情報手段に触れ、慣れ親しみ、適切に活用する能力を育成します。 ② 中学校では、情報手段を適切に使い、自ら必要とする情報を選択し、目的や条件に応じて処理・加工し、自らの情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な能力を育成します。 ③ 情報活用操作能力や情報モラル向上のための指導を各教科等に位置付けます。 ④ I C T機器等の操作方法及び活用方法の研修会を計画的に実施します。
自己評価	・ コンピュータ、電子黒板等の I C T機器や、デジタル教科書やデジタルコンテンツ等を活用することにより、児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容のイメージを視覚的に捉えさせたりすることができました。 ・ タブレットが教職員数分配置されたことで、授業での利活用を図っています。 ・ 定期的に情報教育推進委員会を開催し、教育委員会と各学校との連携を強化しています。また、情報教育推進委員会では、各校の情報教育に係る優れた実践をまとめた「実践事例集」を作成しました。 ・ 夏季休業中にコンピュータ活用研修会を開催し、小中学校教員に対してタブレットを活用した研修を行いました。 ・ 小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」を作成し、各教科等で指導しています。
今後の課題と対応の方向性	・ 教員の I C T機器を使った指導力はかなり向上してきていますが、活用の仕方に教員間の差が生じていることも事実です。情報教育推進委員会を中心にコンピュータ活用研修会や校内研修を行い、教員個々の I C T指導力の向上に努めます。 ・ 平成25年度に作成した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」

	の内容を見直しましたので、今後はその積極的な活用について、情報教育推進委員会を中心に推進していきます。 ・ 「ネットいじめ」も大きな課題の1つです。背景には、ゲーム機やスマホ等の性能を理解していない保護者が多いことがあげられます。保護者に対してそれらの正しい認識を周知していくとともに、正しい使い方や危険性について親子一緒に理解させていく必要があります。
--	--

項 目	4 環境教育の推進
目標・取組概要	① 自然体験を通して、環境に対する豊かな感受性の育成を図ります。 ② 環境保全教育やエネルギー資源教育を通して、環境意識の高揚を図ります。 ③ 総合的な学習の時間を活用し、身近な環境問題への取組を行います。
自己評価	・ 総合的な学習の時間や特別活動を通して、環境保全に関する興味関心を持ち、地区の空き缶拾いや河川敷クリーン作戦に参加するなど、実践活動力を身に付けました。 ・ 愛宕中学校区においては、「野鳥の森少年団」が継続的に活動しています。
今後の課題と対応の方向性	・ 環境教育では、各学校において工夫した取組を行い、成果を上げている学校があります。これらの取組を市全体に周知し、環境保全への意識を高揚させていきます。

項 目	5 キャリア教育の推進
目標・取組概要	① 発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育（児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育）を推進します。 ② 働く意義を体感できる職場体験学習の充実を図ります。
自己評価	・ キャリア教育では、市内の中学2年生が職場体験学習を行い、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、体験報告会を通して情報活用力・表現力を養うことができました。
今後の課題と対応の方向性	・ 中学校2年生で実施している「職場体験学習」は、望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立っています。しかし、毎年各学校では事業所確保に大変苦労しているため、商工会やライオンズクラブ等に働きかけをして確実な事業所の確保に努めます。

<外部の方々から頂いた意見>

* ALT の授業を、児童は楽しみにしている。守谷市出身の高校生はヒアリングの能力

が高いようだ。今後も聞き取る力がつくような授業を心がけてほしい。

- * 子どもたちがパソコンを操作するのが上手なので驚きました。
- * ゲーム機や携帯電話の使い方のきまりをしっかりと決めていない家庭が多い。
- * 英語の授業やイベントをもっと増やしてほしい。
- * 情報機器を使った学習を充実してほしい。企業の協力を得ながら情報モラル教育を徹底していく必要がある。
- * ケータイやスマホの使い方の指導は保護者にも必要だ。
- * 情報モラル教育を計画的に実施して欲しい。
- * 高学年がこんなに意欲的にコミュニケーション活動を展開していることが素晴らしい。意欲の高さに感心した。
- * 2020年東京オリンピックに向けて、外国語の話せる児童に育ってほしいと願っている。
- * タブレットPCは児童全員が使える環境を整えて活用して欲しい。
- * 高学年の児童に対する情報モラル教室は今後も継続して欲しい。また、保護者への啓発も続けていく必要がある。
- * 英語の授業に意欲的に取り組んでいる様子が分かった。
- * 英語が好きという児童が多いということが素晴らしい。これからはとても大事なことになるので、続けて欲しい。
- * これからの時代は、若者が海外で活躍する場面も多いと思う。そのような観点から、県下でも活動が盛んな市国際交流協会と提携して各種イベントを企画・運営し、生徒が国際的文化活動に触れる機会を作ればよいと思う。
- * 外国語は、教科書による基礎はもとより、使ってみる、話してみる、ことが大切である。ALTとの活動を有効活用し将来に生かしてほしい。
- * 職場体験学習は、生徒に仕事に対する考えを再考させるいい機会である。協力いただいた地域の方に感謝したい。
- * 各クラスに配置された電子黒板は、大きくて見やすい。積極的に活用されていて、大変良いことだと思う。
- * 生徒たちに、先生の生き方を語るような機会をぜひ、設けてほしい。
- * タブレットや大型電子黒板などを使った授業には興味がある。それは、生徒も同じなのではないだろうか。ぜひ、効果的に使って授業をしてほしい。
- * 時代の流れに乗り遅れないように、新しい教育機器はどんどん活用した方がよい。問題は、その使い方をどのように教えていくかである。
- * 電子黒板等の導入で、ICTを活用することには大いに賛成であるが、使い方を間違えると、かえって子供に悪影響がある。情報モラルやネット依存などの問題も踏まえ、適切に活用してほしい。そのための職員研修にも力を入れてほしい。
- * 英検の取得率は、(対象校では)昨年度よりは下がったものの、高い取得率で素晴らしい。
- * 全クラスで大型電子黒板やタブレット・ノートパソコンの活用が見られ、大変素晴らしい。

＊ 英検などの資格をとることは、将来役に立つので、今後も奨励してほしい。

〔５〕パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は、積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、みんなで子どもたちを育む教育のシステムづくりを推進します。

項 目	1 地域社会への授業公開と積極的情報発信
目標・取組概要	① 学校便りの発行や学校ホームページの充実を図ります。 ② コミュニティスペースを活用した地域に開かれた学校づくりの推進を図ります。
自己評価	- 家庭や地域社会への積極的な情報発信は、各学校のホームページが有効です。各学校で工夫が見られ、全ての学校でトップページの中心にその日のトピックスが写真入りで掲載され、ほぼ毎日更新されています。保護者はホームページにアクセスすることで、その日の学校の様子がわかるので高い評価を得ています。 - メールマガジン配信システムが全校に整備されており、天候不順による登校時刻変更・不審者情報等の緊急性のある情報提供そのほか、引渡訓練の連絡など迅速な情報提供に大変役立っています。
今後の課題と対応の方向性	- 市全体として、ホームページによる家庭や地域社会への情報発信が充実し、素晴らしいものに仕上がってきています。アクセス数も多く、保護者の中には毎日の楽しみの１つになってきている方もいる一方で、更新回数に学校差も見られます。情報教育推進委員会を中心に話し合い、工夫改善を図っていきます。 - メールマガジンによる保護者への情報発信が定着してきており、大いに役立っています。今後は、配信する情報と内容の吟味をしていく必要があります。

項 目	2 特色ある学校づくりの推進
目標・取組概要	① 地域社会人ボランティアを有効に活用し、授業の活性化を図ります。 ② ブックトークや授業での支援協力、校外活動での引率協力等、積極的にPTAや地域の人材の協力を図ります。
自己評価	- 外部人材の活用については、学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され、登下校での安全指導や学校の環境整備をはじめ、授業のサポートや個別学習にも積極的に参加してもらい効果が上がっています。 - 地域の教育力を十分に活用するため、ゲストティーチャーを招

	聘する機会を多く設けることで、子どもの学習意欲が高まり職員自身の指導意識も高くなりました。同時に地域の学校理解にもつながっています。
今後の課題と対応の方向性	・ 地域に支えられる学校として、学校ボランティア、スクールサポーターの協力がより効果的に活用・運営できるよう組織づくりを促進します。 - また、学習面でのボランティアやサポーターの活用について、個人情報の保護管理に留意していきます。 ・ 学習ボランティアとの打合せ時間の確保と調整が課題となっており、ボランティアとの事前打合せカードを工夫し改善に努めます。

項 目	3 サポートチーム（生徒指導連絡協議会）による生徒指導体制の確立
目標・取組概要	① 児童生徒の安全確保のためのパトロール活動やあいさつ・声かけ運動を実施します。 ② 児童生徒を取り巻く今日的な問題について、情報の共有化と対応への共通実践化を図ります。
自己評価	・ 平成26年6月25日に「生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」を開催し、児童生徒を取り巻く今日的な問題について、情報の共有化と対応への共通実践化を図りました。その際、生徒指導部会では「いじめ問題に係る現状と学校・家庭・地域・関係機関等との連携について」、豊かな心育成部会では「ボランティア活動の取組状況と学校・家庭・地域・関係機関等との連携について」というテーマで分科会をもち、有意義な話し合いが行われました。
今後の課題と対応の方向性	・ 「生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」では、取手警察署の講話やその後の分科会での学校と関係機関との情報交換が貴重な機会となっています。 - しかし、年1回の開催ということもあり、その後の関係機関との連携の在り方が課題となっています。必要とされる機会にスムーズな連携が図れるよう努めていきます。

項 目	4 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全確保体制の確立
目標・取組概要	① スクールミニパトの有効活用を図ります。 ② PTA、地域ボランティア、関係機関と連携し、情報交換やパトロール等の協力体制を図ります。 ③ 通学路の定期的な点検活動を行います。

	④ 地域の人々と協力し、地域安全マップを作成します。 ⑤ 「子どもを守る１１０番」との協力連携を図ります。
自己評価	・ 地域やＰＴＡの協力を得て、通学路の交通安全のための施策を各関係機関に要望し、成果を上げることができました。 ・ 複数学年による集団下校を毎日実施しました。月１回の通学班長会議を設定し、通学班による登下校の安全に対する意識付けとリーダーの育成を図りました。
今後の課題と対応の方向性	・ 通学路については、市、学校、警察及び関係機関と安全点検を行い、道路のカラー舗装、柵の設置や交通規制等の対策を講じています。 今後も市、学校、警察及び関係機関と連携した通学路の安全確保が必要となっています。 ・ 平成２６年度は、児童生徒の交通事故が１６件発生しました。うち１３件は自転車運転中の事故で、１１件は飛び出しや左右確認不足など児童生徒側に原因がありました。また、１２件は登下校中など管理内に発生しています。 登下校だけではなく、帰宅後や休日の交通安全、安全だと思われる場所での危険性についても、引き続き機会あるごとに指導していきます。

項 目	５ 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用
目標・取組概要	① 信頼される学校づくりを進めるため、保護者や地域住民の意見を積極的に取り入れます。 ② 保護者や児童生徒に対する学校アンケートを実施し、学校の課題を明確にして改善を図ります。
自己評価	・ 学校運営協力員会議を定期的開催し、学校の取組の現状や課題についての意見や感想等を頂くことができました。また、学校評価の結果についても広い視野から助言を頂くことができ、学校改善に役立てることができました。
今後の課題と対応の方向性	・ 学校運営協力員会議は、学校評価結果を受けて開催していますが、形骸化しないよう学校課題に対してより効果的で客観的な意見が出やすい会議の持ち方を工夫していきます。

項 目	６ 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進
目標・取組概要	① 保幼と小学１年の交流、小６と中１、中３と高１の具体的交流連携を図ります。 ② 守谷市保幼小中高一貫教育推進委員会、保幼小連絡会、各中学校校区推進会議、中高連絡会等を計画的に開催し、一貫教育を推進します。

	③ 中1ギャップを改善するために、小中教員間交流の充実を図ります。 ④ 小1プロブレムを改善するために、保幼小教員間の連携交流の充実を図ります。 ⑤ スクールコミュニケーションシステム（学校・教育委員会をネットワーク化したシステム）を活用し、学校間連携を強化します。
自己評価	・ 「世界で輝く人づくり」をテーマに、「確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」を目標とした守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進しています。 4つの中学校区ごとに特色ある取組を行いながら、最終的には社会に貢献できる人材育成を目指します。各中学校区でアイデアを出しながら児童生徒及び教職員の交流を中心に様々な取組を行い、大きな成果が得られました。 特に、守谷中学校区で行われた「交流教室」では、学区内の小学6年生を中学校に集めることで、小中教師による乗り入れ授業や小中の児童生徒による合同学習等の有意義な活動を行うことができました。 ・ 8月4日と3月24日に全職員対象の全体研修会、学期1回の推進委員会、月1回の中学校区部会、不定期に企画部会や幹事会等の一貫教育を推進していく中で、より効果的に進められるよう様々な会議を開催し、全学校、全教職員が一丸となって推進できる体制を整えました。 ・ 全ての学校、児童生徒に共通して行う必要がある学習目標とスキル・生活目標とスキルを義務教育9年間の発達段階で身につけるべく方向性を示した「学びのプラン」、家庭学習のあり方を示した「家庭学習のてびき」、9年間の発達段階における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」、9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」の有効活用について、共通理解を図りました。 ・ 中学校区ごとに指導の重点となる内容項目を設定し、9年間の系統性のある道徳教育を目指すための「守谷小中一貫道徳教育計画」を作成しました。 ・ 保幼小の連携は、平成26年12月10日に松ヶ丘小学校で「保・幼・小連絡協議会」が開催されました。「学びのプラン」の共有がテーマであり、公私の垣根を越え、子ども達の成長に向けたより良い支援体制について共通理解が図られ、保幼小中高一貫教育の強化が図られました。

今後の課題と 対応の方向性	・ 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」がスタートし2年が経過し、「学びのプラン」,「家庭学習のてびき」,「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」,「守谷市小中一貫情報教育指導計画」,「守谷市小中一貫道德教育指導計画」の有効活用やその成果について検証していく必要があります。 ・ 児童生徒,教職員の交流については,効率化を図るとともに,全中学校区で「交流教室」や乗り入れ授業を取り入れていきます。 ・ 小中一貫教育の核となる「学びのプラン」については,学習指導案に位置付けることで,その指導の徹底を図ります。 ・ 幼稚園,保育所に対しては,園児が小学校を訪れる機会を増やし,低学年ばかりではなく様々な学年の児童と触れあう機会をつくり,「小一プロブレム」の軽減を図っていきます。
--------------------------	--

＜外部の方々から頂いた意見＞

- * 学校のホームページ,特に学年のページが充実していて,学校の様子がよくわかります。
- * 頻繁にホームページが更新されていることは良いことである。
- * 授業参観の機会が定期的にあり,子どもの成長の様子等がよく分かるので続けてほしい。
- * 地域との交流ができるよう,地元団体との連携も積極的に取り入れてほしい。
- * 個人情報の扱いには,十分注意しなければならないが,保護者同士のコミュニケーションという点では,余計に連絡が取りにくくなっている。
- * 不登校やいじめなどの解決には,地域の力も重要である。さらに,見守り活動に取り組んでいただきたい。
- * 父親の会を発足したことは良かった。会のメンバーも楽しく取り組んでいる。
- * 保幼小中高一貫教育については,手を取り合って主体的に取り組んでいくことが大切である。
- * 地域,保護者,学校が一体となって登下校時の子どもたちの安全確保に努めていることは継続して行ってほしい。
- * 他の学校との交流活動は,子どもたちにとって刺激になるので,充実させて行ってほしい。
- * 下校時の安全を考えると,もっと保護者や地域の方々に協力を呼びかけるなど取り組み方を工夫することも必要である。
- * 開かれた学校づくりについて,学校公開週間を設けていることは良いことである。
- * PTAが主体となって,学校祭等で一般市民を巻き込んだ幅広いお祭りができればよいと思う。
- * 小学校の先生が中一の授業を参観することは,双方にいい機会であると思う。継続してほしい。

- * 保護者の中には諸事情で来校できない方もいるので、ホームページは最新情報を公開してほしい。また、少しでも保護者・地域の方等に生徒の様子を見てもらい、生徒の頑張りを体感してほしいので、対応をお願いしたい。
- * 中学生になると学校のことをあまり話さなくなるので、ホームページの情報は親子の会話等に変役に立っている。
- * 小中の関わりが密接になってきた。9年間を通してみんなで育てていきたい。
- * 地域としての活動を活性化させ、地域で子どもを育てる意識が高められるように地域に働きかけていきたい。
- * 地域にはたくさんの人材がいる。ぜひ活用してほしい。北守谷連絡協議会を活用してほしい
- * 広報誌を学校のPRに使うとよい。そのために、広報誌等を公民館等の住民の目につくところにおいておくとうい。
- * 便りを地域に回覧するとよい。